



金亀会報

令和6年3月1日発行
発行所
滋賀県立彦根東高等学校
金亀会
滋賀県彦根市金亀町4-7
TEL&FAX0749-23-0888

印刷所
ヒコハシ
彦根市城町1丁目4-12



▲令和5年体育祭▼



▲昭和40年代の学園祭（東高新聞）



▲令和5年文化祭▼



▲昭和40年代の体育大会（東高新聞）



**今も昔も滋賀県各地から集まる
生徒がおもいきり楽しむ
彦根東高の学園祭**



金亀会HP



学校HP

【令和5年度生徒の出身中学校市町別人数】

彦根市約260人 長浜市180 東近江市110 大津・草津・守山・栗東・野洲市160
近江八幡市100 米原市70 蒲生・愛知・犬上郡40 他市・国立・県立・私立等40



動画で見る彦根東高校



金亀会会長 上田 健一郎(東28)

ごあいさつ 創立150周年に向けて

金亀会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝でご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。平素より母校の発展並びに同窓会活動に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

母校が位置する彦根城一帯は、現在、滋賀県の彦根城世界遺産登録推進室を中心に、世界遺産登録に向けて、ユネスコが昨年新たに導入した世界遺産の新規登録に向けた「事前評価」制度を活用し、取り組みが進められています。

彦根城は、平成4年(1992年)の世界遺産登録暫定一覧表の記載から30年余の時間を経たことから、推薦書の提出に先立ち、世界遺産に相応しい顕著な普遍的価値が備わっているかなどを、事前にユネスコの諮問機関であるイコモスから公式なアドバイスを受け、対話を踏まえ更に検討を進めていくものです。その事前評価の結果の伝達が、本年2024年10月にあり、その結果次第で登録の行方がある程度みえてくることから、事前評価の結果が待たれるところであります。

17世紀初頭から約250年間にわたって、安定した社会秩序を形成維持した江戸時代の大名による政治の仕組みを象徴的に伝える「城」として、①現存する内堀と中堀と石垣 ②天守と櫓 ③御殿 ④重臣屋敷 ⑤大名庭園 この5つの物語を備え、江戸時代の政治の仕組みを体感できる「城」は今

や彦根城が唯一となりました。

ご承知のとおり、彦根東高等学校の歴史は、「彦根学校」が旧彦根藩土外村省吾を校長として開校した明治9年(1876)に始まります。彦根学校設立運動の中心となったのは、旧彦根藩士と地域の有志でした。その源流は、寛政11年(1799)第11代藩主直中公が創設された藩校「稽古館」(後に「弘道館」と改名)です。

そして、明治22年より母校は、先の5つの物語のひとつ、①二重の堀と石垣、内堀と中堀の間に位置することから、彦根城の世界遺産登録が実現すれば、世界遺産のお城の中にある唯一無二の高等学校と期待するところです。2027年の最短の登録を願うばかりで



彦根東高等学校 校長 伊吹 直樹

ごあいさつ

金亀会会員の皆様には、ますますご壮健にて各界でご活躍のこととお慶び申し上げます。平素より彦根東高の教育活動に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

現在彦根東高には、滋賀県各地から集まる1,000名を超える生徒と教職員が力を合わせて学校を創り上げています。私は校長として、ほぼ毎日、授業や部活動での

す。

さて、母校は、先に述べました明治9年8月の創立ですので、令和8年(2026年)には創立150周年という大きな節目の年を迎えます。創立150周年を迎える高等学校は全国的にも少なく、滋賀県内では1番目となります。この節目の年に向けて、昨年より準備委員会を立ち上げ、過去から現在そして未来に繋がり、母校の発展に資する事業の検討を始めました。詳細が決まり次第、会員の皆様にはホームページや会報等を通じてお知らせさせていただきます。

結びに、金亀会の伝統は多くの諸先輩方の活躍により培われてきました。会員皆様のご健勝を祈念するとともに、母校のより一層の発展ならびに当会の活動に対し、今後もご指導ご支援をお願い申し上げます。

ながっています。特に、彦根城周辺のスポーツ施設(写真)が充実しており、野球・サッカー・陸上・ボート・弓道・ハンドボールなど、生徒は思いっきり部活動に打ち込んでいます。

彦根東高のすべての教職員は、同窓であるなしによらず、勤めた学校こそ我が母校として主体的に学校改革を行っています。近年では、2学期制(平成8〜27)、65分授業(平成10〜14)、土曜授業(平成14〜)、55分授業(平成15〜23)、50分7限授業(平成24〜)、スーパーサイエンスハイスクール指定校(平成16〜令和3)、ワールド・ワイド・ラーニング開発拠点校(令和4〜6)、DXハイスクール(申請中)など、常に滋賀県高校教育改革の先陣を切つて魅力ある高校づくりに挑戦しています。

振り返れば、『彦根東高等学校百二十年史』に、『徳川家康は、政治の中心地京都に近く、北陸・東海・近畿を結ぶ軍事上の要地湖



東に、彼が最も信頼する武将の一人井伊直政を封じた。直政はその勇猛果敢な戦いぶりが「井伊の赤鬼」として知られていた」と記されています。彦根藩の藩校時代から綿々と受け継がれる「赤鬼魂」の精神があります。

そして令和8年度には、明治9年開校の彦根学校を起源として創立150周年を迎えることになり、金亀会会長の上田健一郎様を中心として、部活動の招待記念試合など様々な事業や募金のご準備をしていただいています。彦根東高の諸先輩達が営々と築き上げた歴史と伝統を継承しつつ、国際性の育成などこれからの新たな学校づくりにもつなげる大事な節目として、と考えています。

こうしたことから、全国の若手の卒業生も含めて金亀会会員の皆様には、5月の金亀会総会、滋賀金亀会総会をはじめとして、東海金亀会(6月)、東京金亀会(7月)、関西金亀会(10月)の各総会にご出席いただき、母校への思いを語り会員間のつながりを深めてほしいと思います。我ら教職員も彦根東高のさらなる発展に一層尽力してまいります。

最後に、今年度彦根東高に関わっていたいただいた方々に心より感謝申し上げますとともに、今後とも全国の皆様からご支援をいただきますようお願い申し上げます。



恩師だより

文武両道
赤鬼魂

《プロフィール》

彦根生まれ・韓国仁川龍岡国民学校・北朝鮮端川国民学校・彦根城東小・彦根東中・彦根東高・日本体育大学卒業
1957年から2年長浜西高(当時)勤務
1959年から27年彦根西高(当時)勤務
1986年から9年彦根東高勤務後退職
現在滋賀県パドミントン協会副会長・長浜茶道愛交会会長

はなふさ ふうこ
花房 房子(東3)

彦根東高校生時代

戦後高等学校の編成が再々あり、旧彦根東高、彦根高校を経て、現彦根東高校(普通科)となった昭和27年に入学した。現在の校歌「開けよこの窓」がその年の2学期にできた。文武両道や、赤鬼魂の教育を受ける中、クラブ活動を何にするか悩んだ。彦根東中で体操をやっていた3人で、もう一度やろうと体育教員室へ何度も行き、部を作って頂きたいとお願いした。再三の願いに大津東高(現膳所高)に敗けぬならと同好会を認めて貰い、床と跳馬・平均台は体育館の隅で練習、平行棒がなく、彦根西高まで毎日通って練習した。団体戦には人数不足で個人戦出場だったが、2年(大宮)、3年(大阪)でのインターハイに、又、2年時県の新人戦で個人総合と床、平均台・跳馬の種目別優勝した。3年では彦根東高2名、大津東高1名の3名が滋賀県より第9回札

幌国体に出場した。又、3年時体操のインターハイを終え、同じ大阪でのハンドボールのインターハイに選手不足を補い選手として出場した事は忘れられない思い出である。入学時薬剤師を志していたが、スポーツに魅せられ体育大へ進学した。

器械体操を指導する機会はなく、彦根西高でパドミントンの顧問をし、中学で経験のある生徒を如何に強化すべきか考え、当時滋大(経)で指導されていた大学の先輩でもあった榎本教授にお願いし、大学生の胸を借りての練習をやらせ、初心者指導を学校で終えた後、毎日滋大迄行き生徒の練習を見届けた。十数年インターハイに、近畿代表として国体へも数回引率した。近畿で優勝する選手も出た。その後校内での選手育成をやり乍ら、審判の域を勉強し、一級公認審判員に続き、日本協会初の公認



三金亀の方々と甲子園にて、母校に声援を送る筆者(右下)

東高での9年間
保・体の教師として新入生に先ず東高体操を指導したが、やり方は集団で教え、後は一人一人壁に向って孤独の練習法とし、生徒も真剣に取り組み実に早く素晴らしい集団演技が完成した。女子には必ず平均台を取り入れた。人生には「勇気と決断力」の必要性がある事を納得させての上であった。必須課題を与え個々が連続技を創作した。早朝練習する生徒も多かったが、落ち零れは一人もいなかった。流石東高生だと思った。保健課と生徒課では生徒会と美化係を担当、当時4階の3年生の便所掃除を1階の1年生が毎放課後やっていた。理由は3年生に学習時間与える為と聞き、人道的に有るまじき事と思ひ美化係を申し出て各階各学年に戻し掃除の指導に廻った。生徒会では、花田勝彦君が中長距離選手として大活躍していたが、表彰の機会がなく、昼休み校長室で学校長に表彰して頂き、その後の成長に期待した。彼は早大で箱根駅伝や二度の五輪出場を果たした。学校行事の遠足は1年醒ヶ井養鱒場、2年安土城趾、3年余呉湖で関係者に生徒個々が集合し、目的地迄個々のペースで歩き駅解散であったが、事故もなく自主的で有意義であった。他校には見られないやり方だろう。学習面でも今に続く廊下学習は東高ならではの。

甲子園

昭和28年2度目の甲子園出場時、蒸気機関車で応援に出かけた。爾



来、県内試合、甲子園へは全て、近畿大会準決勝対大阪桐蔭を舞洲迄学校のバスに便乗して出かけた。野球部応援は今も続く。

茶道

表千家茶道を学び始めて60年、長浜慶雲館での懸釜も20年を越える。今も小学6年に授業として、学童保育の子供、老人会、身障者、事業所の方々に茶道体験を全てボランティアでやらせて頂いている。

米寿を前にして

茶道の他に、週一、27年続けてきたシニア体操指導、週一なわとび体操、オカリナを月2回習い10年余楽しみ、時にステージ演奏に参加している。小学生の下校パトロールを時々応援している。

おわりに

井伊の武將の赤鬼魂、文武両道を大切に、何時迄も県下に全国に誇れる彦根東高であって欲しい。最後に母校の益々の発展と、金亀会の皆様の御健勝と御活躍を心より念じ上げ筆をおきます。 合掌

令和4年度 金亀会一般会計収入支出決算報告書

(収入の部) (単位:円)

Table with 5 columns: 予算科目, 予算額, 決算額, 差引額, 備考. Rows include 入会金, 会費, 雑収入, 繰越金, 合計.

(支出の部)

Table with 5 columns: 予算科目, 予算額, 決算額, 差引額, 備考. Rows include 事務費, 通信費, 総会費, 会議費, 旅費, 渉外費, 事業費, 激励費, 繰出金, 予備費, 合計.

収入総額 10,269,339円-支出総額 8,403,526円=残額 1,865,813円 (令和5年度へ繰越)

令和5年度 金亀会一般会計収入支出状況 (12月末)

(収入の部) (単位:円)

Table with 5 columns: 予算科目, 予算額, 収入済額, 差引額, 備考. Rows include 入会金, 会費, 雑収入, 繰越金, 合計.

(支出の部)

Table with 5 columns: 予算科目, 予算額, 支出済額, 差引額, 備考. Rows include 事務費, 通信費, 総会費, 会議費, 旅費, 渉外費, 事業費, 激励費, 繰出金, 雇用費, 予備費, 合計.

収入総額 4,393,230円-支出総額 2,202,660円=残額 2,190,570円

令和4年度 金亀会基金会計収入支出決算報告書

(収入の部) (単位:円)

Table with 5 columns: 予算科目, 予算額, 決算額, 差引額, 備考. Rows include 繰越金, 繰入金, 寄付金, 雑収入, 合計.

(支出の部)

Table with 5 columns: 予算科目, 予算額, 支出済額, 差引額, 備考. Rows include 激励費, 周年事業費, 計.

収入総額 18,042,649円-支出総額 1,673,550円=残額 16,369,099円 (令和5年度へ繰越)

令和5年度 金亀会基金会計収入支出状況 (12月末)

(収入の部) (単位:円)

Table with 5 columns: 予算科目, 予算額, 収入済額, 差引額, 備考. Rows include 繰越金, 繰入金, 寄付金, 雑収入, 合計.

(支出の部)

Table with 5 columns: 予算科目, 予算額, 支出済額, 差引額, 備考. Rows include 激励費, 周年事業費, 計.

収入総額 16,460,524円-支出総額 2,163,550円=残額 14,296,974円

令和4年度 会計監査報告書

令和4年度滋賀県立彦根東高等学校金亀会の一般会計及び基金会計について、各会計の決算書を基に関係諸帳簿、預金通帳及び収入支出証書書類等の監査をしたところ、いずれも適正に処理されており、正確であったことを認めます。

令和5年4月20日

金亀会会計監査 横田 実(印) 青山 裕史(印)



令和5年5月21日(日)に金亀会を彦根東高校の木造校舎多目的ホールにて開催いたしました。久闊を叙するのため全国各地から70名以上の同窓生の方に御出席をいただきました。

金亀会総会

総会では、令和4年度の事業報告・会計決算報告に加え、会長の交代を含む新体制の役員人事(詳細は11面)、令和5年度事業計画案・会計予算案等に関する審議を経て、これらの承認を頂きました。

日本が直面する経済面やエネルギー面での安全保障上の諸課題についてのお話は、現代史や国際関係に深いものでした。その後の質疑応答も、時間いっぱいまで挙手が止むことはなく、ご出席の皆様からも大変な好評をいただきました。今年度は、コロナ禍からようやく平常に復帰する時期となり、満を持して彦根キヤッスルリゾート&スパ様の方で懇親会を開くことができました。40名近い方々のご出席をいただきこちらの方も盛会の内に終わることができました。次回の開催については、12面の最後に案内がございますのでそちらの方を御覧ください。

なお、記事の最後になりましたが、総会並びに懇親会の開催にあたりまして滋賀金亀会有志の方々からもお手伝いいただきましたことについて、報告とお礼の方を申し上げます。御同窓の皆様とあの頃にもどって語り合える貴重な場を提供すべく事務局一同微力を尽くす所存でございますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

東海金亀会 近況報告

事務局長 川村 恒治 (東16)

*第21回東海金亀会定例総会

令和5年6月18日(日)、東海金亀会(孫工昇嗣会長・東11)定例総会を名古屋市の東京第一ホテル錦で開催しました。金亀会本部から上田健一郎会長(東28)、細江正人前会長(東13)を、また母校から伊吹直樹校長、本部事務局の小谷野佑介教諭をお迎えし、会員も18名が出席しました。

コロナ感染もピーク時に比べ小

康状況となつたとはいえ、高齢者を中心にまだ感染を心配される会員もおられて、コロナ感染拡大前の40名近くが出席されるまでには至りませんでした。



総会では、令和4年度の事業報告、会計報告・監査報告、令和5年度の事業計画案、役員候補案が諮られ、原案通り承認されました。

今期も孫工会長の下、18名の役員で東海金亀会活動を展開していくことが決まりました。その役員の方では今回2名が退任され、新たに長谷川隆(東24)、箕浦多佳雄(東30)の両氏が新たに就任されました。

総会終了後は懇親会に移り、上田会長、伊吹校長、細江前会長からご祝辞を頂き、国スポ大会に備えた彦根競技場の拡張整備やその周辺の環境整備が進んでいること、母校の生徒の文武に渡る活躍ぶりなどのお話を頂きました。その後、最長老出席者の丸本洋之助(東7)さんの乾杯のご発声を受け、和やかな懇親会が進みました。

また懇親会では、「西村麻衣子さんによるオカリナ演奏」を取り入れ、優雅なオカリナの音色を楽しんで頂きました。従来は講演会を中心に企画してきましたが、今回は趣旨を改めて和やかなオカリナ演奏を楽しみました。来年度は、令和6年6月23日

(日)の総会開催を予定しています。
*懇親ゴルフ会
会員間の親睦ゴルフ会は、例年春と秋の年2回開催されており、昨年の9月21日(水)に第37回が岐阜関カントリー倶楽部で11名が参加し、土井勝朗(東9)さんが優勝されました。第38回は今年の5月30日(火)に、さなげカントリー倶楽部で開催され8名の参加で川村恒治(東16)さんが優勝されました。

次回の第39回は9月〜10月の開催が予定されています。
*歴史探訪ウオーキング会
毎年11月に年1回、東海地区の名所旧跡を訪ねて、歴史探訪ウオーキングを開催しています。参加者は10名から20名くらいですが、第11回では11月19日(日)に「レトロの町・愛知津島」を訪ねました。

今後も定例総会はじめ、懇親ゴルフ会、歴史探訪ウオーキング会等、各種の会員交流行事に皆さんの参加をお待ちしています。

第104回 2023年度 東京金亀会総会並びに親睦会報告

幹事長 福永 典明 (東17)

会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

本年度は関東在住者一都七県1,890名の会員方々に案内状を送付致しましたところ、総会出席者を含め185名の方々に年会費を頂戴し誠に有難うございました。

皆様から納付頂きました年会費は貴重な財源として案内状送付等の運営費に活用させて頂きます。さて、今年は79名の皆様に参加

していただき通常の総会並びに懇親会となりました。

従来通り一卓につき8名様を着席形式でお食事はお一人ずつ松花堂御膳にしました。

総会はスピーディーかつ簡素にと福原紀彦会長(S47卒)の挨拶に始まり、昨年の事業報告・会計報告・会計監査報告を満場一致で承認頂きました。

又、ホームページの開設と毎年の案内状の郵送を段階的に減らしていくことを提案し、併せて承頂きました。

その後は前清水建設副社長で今年から東京金亀会の副会長の今木繁行様(S48卒)の特別講演『清水建設の発展に寄与した井伊直弼とこれからの建設業』と題して横浜港開港での洋館建設を井伊大老から直に請け負ったこと、如何に今日の清水建設が横浜開港における建物の建設によって発展したかまたこれからの建設現場でのロボット化など最新の情報を交えてお話し頂きました。一同意外な縁のお話も含めて為になる最新情報も聴けて大変勉強になりました。

講演終了後は参加者一同の記念写真撮影を致しました。

懇親会は森崇副会長(S53卒)奥村滋子副会長(S56卒)の2人で高らかな乾杯音頭で開始。

ここで金亀会前会長細江正人様、金亀会新会長上田健一郎様、彦根東高校校長伊吹直樹様からのご挨拶を頂戴いたしました。

そして早大競走部駅伝監督の花田勝彦様(H2卒)からのビデオメッセージをいただきました。宴もたけなわの頃、的場昭光様(S50卒)からNHKのテレビ小説「らんまん」でおなじみの「牧野富太郎博士ゆらいの南天の樹の物語」を米原から帝釈天に至る南

天の樹のお話を、資料を交えながら語ってくださいました。

このお話は後日滋賀県千葉県人会でもご披露されることとなりました。

さらに彦根鳥居本のサンライズ出版の岩根治美様(S47卒)からサンライズ出版が近江滋賀にまつわる書籍を出版し続けておられその図書目録も含め活動をお聞きすることができました。

また滋賀県東京本部長中村守様の代理で滋賀県東京本部政策推進課長東郷伸幸様(H3卒)からのご挨拶も頂きました。

そしていよいよ最後は校歌・応援歌・「琵琶湖周航の歌」を中村直樹様(S47卒)の指揮のもと参加者全員で唄い、さらに岡村美孝顧問(S44卒)のメールで参加者の中で一番若い今年の4月に清水建設に入社したばかりの田島優樹様(H30卒)にメールを送り、合わせて母校及び金亀会へのメールと盛大に閉会の締めを行いました。

尚、藤川央幹事(S47卒)のご主人の実家である千葉県佐倉市のヤマニ味噌をお土産としてお持ち帰り頂きました。

2024年は7月13日(土)11時から開催となります。

会場がJRお茶の水駅徒歩5分の「東京ガーデンパレス」になります。



講演は吉本興業の谷良一様（S50卒）を講師に迎えて、『M-1はじめました』く漫才M-1グランプリを創った人』という演題で予定しております。どうぞ皆様は多くの御参加をお待ちしております。

関西金亀会の報告

総会&交流会と「復活」歩こう会

副会長

川瀬 辰男（東18）

関西金亀会の令和5年は「変革」と「復活」の年になりました。「変革」とは――。総会をより交流を深める魅力ある場にしたと、松村正和会長（東16）以下役員が議論を重ね、総会を隔年から毎年開催に切り換え、内容も一新。第11回総会&交流会と銘打って、前年10月に引き続き令和5年10月7日、大阪市内のホテルで来賓を含め64人が参加して開催されました。

「歴史街道歩こう会」「ゴルフ同好会」活動報告など、型通りの総会のあとは従来なら講演の時間ですが、今回は趣向を新たに「甲子園レジェンド」対談。母校は春4回、夏2回甲子園に出場していましたが、1953（昭和28）年選抜大会に出場した若松儀勇さん（東2）がインタビューに答える形で、彦根城に登るきつい練習や緊張の開会式など思い出を熱く語りました。会場からは「もう一度甲子園（応援）に行きたい」の声しきりでした。

一方、「復活」は――。関西金亀会最大のイベント、第35回歴史街道歩こう会「初夏の八日市を歩く――近江鉄道貸切電車に乗って」が5月25日行われました。コロナ禍の中断を経て3年半ぶりの実施です。同窓生151人が参加。上は90を超える彦根中3年生3人80代が4割を占め、新幹線と在来線を乗り継いで愛知県からは参加した女性も。

JR近江八幡駅集合。近江鉄道近江八幡駅から貸切電車（2両）に乗り、八日市駅下車。駅近くの屋食会場のホールには、地元東近江市の小椋正清市長（東18）が駆けつけ歓迎の挨拶です。参加者は4班ずつ2コースに分かれ、駅周辺の大風会館や酒造会社などを見学しながら約2時間半歩いたあと再び八日市駅で貸切電車に乗り込み終点の彦根駅へ。参加者は近江鉄道を利用して通学したひとも多く、沿線の景色を眺めながら「ずいぶん変わったなあ」と感慨深げでした。歩こう会は今年も5月ごろ実施予定です。大勢の参加を期待しています。

滋賀金亀会の令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、4年ぶりに例年通りの事業を開催する事ができました。秋の集いは11月11日、近江八幡市のホテルニューオウミに於きまして、近江八幡市出身の衆議院議員・細野豪志氏（東38回）を講師に迎え、講演会と親睦会を開催いたしました。細野氏の近江八幡の思い出、東高時代の思い出、政治を志したきっかけなどをお話しいただきました。興味深いお話も多く、聞き応えのある講演会でした。その後の懇親会では、細野氏の恩師や同級生も多く集まり終始和やかな雰囲気の中で会員の皆様との交流を深めることができました。とても楽しいひとときでした。来年度はより多くの会員様にご参加いただけますよう努めて参ります。学校区が全県となり、県内各所に金亀会会員が増え、旧「彦根・湖東・湖北支部」から滋賀金亀会へと名称並びに会員エリアを変更した矢先のコロナ禍で運営もままならない時期もございましたが、滋賀金亀会は今後も会員相互の交流を中心に金亀会・彦根東高等学校の発展に寄与していきたいと考えておりますので、会員の皆様におかれましてはより一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。滋賀金亀会では、滋賀県下にお住まい又はお勤めの卒業生はどなたでも入会（年会費1,000円が必要）できます。「秋の集い」

滋賀金亀会

令和5年度報告とご案内

副会長兼事務局長

木村 泰健（東38）

など各事業の案内を送らせていただきます。ぜひこの機会にお誘い合わせの上、ご入会ください。入会を希望される方は、次の連絡先まで、お名前と卒業年度を記入しお送りください。折り返し滋賀金亀会案内をお送りします。事務局 木村泰健（東38回） FAX(0749)2316738

第15回「彦八会」同窓会

森田 敦子（東8）

東高8回卒業生の「彦八会」同窓会が秋晴れの清々しい空の下、10月18日（水）にマリアージュ彦根で開催されました。65名が集い、懐かしい再会を果たしました。受付では、母校の公式マスコット「ぎんちゃん」の可愛らしいキーホルダーが記念品として手渡され、学び舎のシンボル銀杏の木が心によみがえりました。

余興では小野節子さんの美しいドイツ語の歌曲に聴き入り、北村耕二さんの力強い節回しの江州音頭では、有志の踊、全員が手拍子と掛け声で調子をとり盛り上がりました。また、森健蔵さんは琵琶湖に浮かぶ「竹生島」の謡曲を吟じ、バラエティに富んだプログラムが披露されました。老いてもなお、若々しく生き生きとされていると感じました。最後に「琵琶湖周航の歌」を2番までの予定が6

歓談の時間に入ると、NHK連続ドラマ「らんまん」に登場した旧彦根中学で教鞭をとった平瀬作五郎先生のスライド紹介や新聞部顧問の小谷野佑介先生による全国に名だたる彦根東高校新聞の活

動報告も。最後は初の試みのビンゴゲーム。テーブルごとにビンゴ達成者の人数を競い、大いに盛り上がりました。令和6年第12回総会&交流会は10月第1土曜日に開催を予定しています（場所は未定）。

今年も5月ごろ実施予定です。大勢の参加を期待しています。

森健蔵さんの司会のもと、まず、鬼籍に入った方々を偲ぶ黙祷を捧げました。次に、心を一つにして校歌を斉唱。開会の挨拶では、代表幹事の武田益利さんから歓迎の言葉がありました。その中で、当会は2年毎の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、東京開催から4年ぶりの再会となり、その喜びを述べられました。また、私達は卒業から63年が経過する中で、後輩たちの文武両道での著しい活躍の報告や、甲子園球場のアルプスタンドが赤色で染められる中の勝



番まで熱唱しました。
 素敵な時間は経つのが早く、次期開催を代表する竹村文夫さんが2年後の京都での開催の予定を発表されました。西川常雄さんの閉会の辞で、2年後に皆様と元気に再会できることを心から願うての言葉で、盛況のうちに幕を閉じました。
 そして、会は二次会へと。

**「卒業60周年記念」同窓会
 下川 至彦 (東11)**

15回目となる今回の同窓会は、母校を卒業して60周年を迎えます。この節目の年を記念して「卒業60周年記念同窓会」を開催しました。4月6日、マリアー・ジュ彦根を会場に91名(男性67名・女性24名)が集い、「60周年」を祝いました。

第8波のコロナ禍での開催に批判覚悟で、60周年のこの年に開催することを決断。厳しい状況にも関わらず、各地から91名の出席者に幹事一同感激しました。

チャイコフスキーピアノ協奏曲第一番の曲が流れる中、北澤和郎君の司会で開会しました。この曲は、新校舎完成を機に始業チャイムとして60年前に採用され、今も鳴り続けています。11期卒業生にとっては懐かしく、出席者一同60年前にタイムスリップすることができました。

今回の同窓会は、60周年記念でありながらも特別なセレモニーをあえて行わず、歓談の時間を十分に確保して、「しゃべって、しゃべって、しゃべり尽くす」ことをコンセプトにしました。
 パキスタンから遠路出席の督永忠子君の乾杯で開宴となり、久し

ぶりに再会した友との懐かしい話や近況を十分に語り合い楽しい時を過ごすことができました。

また、琵琶湖周航の歌の大合唱や甲子園春夏出場時の映像を観ながらの校歌斉唱で盛り上がり、時の経つのを惜しみつつ終宴を迎えました。

次回開催の代表幹事に川瀬勝彦君を決定し、3年後の再会を期して散会となりました。



**EAST16同窓会
 「喜寿まで待てん!同窓会」開催
 幹事 高橋 博 (東16)**

2009年還暦。2017年卒業50年記念。2019年古希の集いと節目ごとに同窓会を開いてきたEAST16(東16)の仲間がコロナ禍があけて2026年の喜寿まで待てないと急遽同窓会を開催しました。

2023年10月20日。エクシブ琵琶湖に北は北海道、南は九州から喜寿の集いまで待てない95名の仲間が集まりました。
 パーティ第一部は昭和から平成・令和と時代の時事映像と共に

この時代を団塊の世代のテールエンドとして生きてきたEAST16のメンバーの姿をビデオで紹介し、一気にあの青春時代にタイムスリップしました。

実行委員長辻啓二君の「開会宣言」に続き今回の特別プログラム「井伊亮子フルートコンサート」で井伊家直系の井伊さんのフルートセッションを楽しみました。
 そして恒例となった物故者の追悼ビデオ。今回は52名の先だつた仲間と卒業時の恩師10名の先生方の映像も併せて早すぎる仲間と恩師に黙とうを捧げました。

パーティの第二部は井上実君と宇治原ひとみさんの軽妙な司会で開宴。松村正和君(関西金亀会会長)の乾杯発声でスタートしました。

エクシブ琵琶湖の中華料理のコースで食事を楽しみながらクラス毎にテーブルで歓談。喜寿まで待てない集いは笑顔に包まれて進みました。

アトラクションは「EAST16無形文化財的同級生顕彰」ということで現在アート界で活躍中の同級生3名:ブツサン肖像画を描く木澤忠兵衛君、スケッチ画家の松居清恵君、日展受賞洋画家佐渡一清君を顕彰しました。

また彦根城を世界遺産登録に尽力する木村泰造君が推進ビデオとスピーチで支援を呼びかけ世界遺産の指定地域内に存在することになる母校をアピールしました。

さらに前日彦根カントリー倶楽部で行われた恒例の「ゴルフコンペ」の成績をコンペ世話役の中川哲君が発表して会場は盛り上がりしました。

その後は高田清君のカメラでクラス別写真撮影会。10クラスの撮影が終わるころにはすっかりパーティ



テイも出上がり「校歌斉唱」。木村泰造君の中締め挨拶。そして同窓会での二次会となりました。

席となりあちこちで懐かしい仲間との歓談となりました。途中で卒業アルバム写真から全クラスの懐かしい映像や有志(宮内しげ子さん・宮内直美さん)の私物アルバムからの映像もビデオクリップで紹介。「東校応援歌」も歌って若かりし頃の映像に歓声があがっていました。

その後は三次会で彦根袋町の「SINGERS」に30名近くが移動。やや寒くなった彦根の夜空に衰えないシニアパワーをもてあまし四次会まで繰り出す元気な「喜寿まで待てん!同窓会」となりました。

**第17回卒業生同窓会報告
 川上 建司 (東17)**

令和5年5月26日に第17回卒業生の同窓会を5年ぶりに、彦根駅東口側にあるペルテ・フォーリアにて開催しました。

私達の最後の同窓会として、コロナ禍前の2020年から計画していたが、コロナのため再三の延期を重ねた上で、ようやくにして開催に漕ぎつけた。
 スタッフ13名が企画立案、会場探し、開催案内の送付等に、10

数回にも及ぶ会議で詰めてきたもので、成功裡での達成感はスタッフ一同感慨深いものになった。
 物故者への黙とう、藤井正博委員長の挨拶、井上雄二君の乾杯の発声に続き校歌、応援歌を斉唱して、一気に東高生に戻った。

参加者は70名であり、懐かしい面々ではあるのだが、最初は「ええっと、おたくさんは?」と、お互いが戸惑いながらも時間経過とともに、「お前か!」「あなただつたのね!」と、東高時代がフラッシュバックする中、再会を喜びあった。

当時、創立記念日に開催されていたボート大会や秋の体育祭、文化祭と「かがよい」、担任の先生のこと、修学旅行などの楽しい思い出や勉学で頑張ったこと、更には既に物故者となられた方々のことにも話が及んだ。

今回の同窓会では全員参加型のコンセプトから、70人の皆さんから近況等や思うことなどを各自から5分間ばかり、それぞれが発表する時間を持ち、各人の体調、仕事、家族、子供、孫のことなどにも話が移り、和気あいあいでの笑いも出る中、皆さんからは十分に思いの丈をお聞かせいただけ大変好評であった。

終了後は会場周りで気の合うグループ同士で二次会を楽しんでいただいたようだ。

記念品として、東高校新聞部制作の「ぎんにゃん・ストラップ」と地元井伊家伝来製の「彦根更紗」並びに参加者、不参加者から頂いたコメント集も渡せた。

私達が72歳の齢からも最後の同窓会となるが、今回が小グループで集まる契機となればと願うところである。

最後は岡村美孝君の締め言葉



同窓生の皆様には、今後とも健やかに過ごしていただくことをご祈念申し上げます。

彦根東19回卒業生回同窓会 幹事 廣島 清剛 (東19)

彦根東19回卒業生回同窓会を2023年10月16日月曜日に参加者72名で、マリアージュ彦根で開催しました。今回は9回目となります。

物故者への黙祷、西田君から一昨年に実施した卒業50周年募金事業の報告、幹事長の私からの開会挨拶、今年「旭日中綬章」を受勲した細田君による乾杯の後、歓談へ。

と校歌、応援歌を斉唱してお開きとなりました。本当に楽しいひとときを懐かしい同級生と過ごせ至福の時間となった。

不参加の方々には、この投稿で当日の状況を聞いていただければ幸いです。当日の写真や近況報告は同窓生限定のグループLINEやFacebookやブックに掲載し、今も交流を続けています。



東20回卒の同窓会を開催しました 大塚 恵昭 (東20)

2023年11月18日(土)に彦根市内の料理旅館やす井で東20回卒の同窓会を開催しました。

前回は2018年に開催した時、私たちが高齢者に差し掛かって来たから(とういうか、もう高齢者だから)生存確認のために今回は2020年に開催しようかと決めていたのですが、コロナ禍で開催は叶いませんでした。21年、22年も、「みんな集まろうぜ」というにはまだコロナが収まり切れていませんでした。新型コロナが感染症5類に下がったので23年に予

定より3年遅れて開催できたという事です。23年は折しも私たちは古希を迎えた年でもあり、「もう古希、まだ古希、人生これから」というキャッチコピーを添えての開催でした。



東28回「還暦+1同窓会」 猪田 章嗣 (東28)

昭和55年3月卒業生の同窓会を、令和5年9月23日(土)に開催しました。私が彦根東高校の校長だった令和元年、当時金亀会副会長だった上田健一郎さんと同窓会をやらうと相談していましたが、直後に新型コロナウイルスが蔓延し、頓挫してしまいました。数年後に幹事会を立ち上げ、「還暦同窓会」として令和4年5月に実施しようとして令和4年5月に実施し

まり切らず、結果二度の延期を余儀なくされ、ようやく今回「+1」として開催にこぎつけました。当日は、まずオプショナルツアーとして、10時30分に懐かしい母

校に50名余りが集合し、伊吹校長先生のご挨拶のあと、3班に分かれて耐震改修リニューアル工事で生まれ変わった校舎を見学しました。在学当時の母校の様子を思い出しながら、きれいで快適になった校舎をじっくりと楽しく見学することができました。



第39回卒業生 同窓会報告 幹事 小嶋 一浩 (東39)

令和5年9月17日ホテルニューオウミにて50歳の節目の同窓会を開催しました。61名の出席者に加え、花房先生、伊藤先生、寺村先生、堀江先生、宮嶋先生、吉田先生、中辻先生にご臨席いただきま

した。司会は藤居剛君、代表幹事より開会挨拶の後、花房先生の乾杯のご発声でしばし歓談。特別寄席として近大亭都来こと水谷宏明君が古典落語『青菜』を披露し会場を沸かせてくれました。先生方お一人お一人から温かい言葉をいただき、記念撮影の後、全員で肩を組み校歌を熱唱、生徒会長・村川学君の閉会の言葉で幕を閉じました。



今回は株式会社笑屋(同窓会代行業者)を利用し、連絡、会場設営、会計、等々、幹事としてはたいへん楽をさせていただいたので、少し会費が割高になりました。うせめて気持ちだけでも・・・と言う事で「お土産スポンサー募集」をした所、しごとき・キタジマ和光堂(北島雅行君)、平田歯科医院(平田功君)、布引焼窯元(小嶋一浩)、また出席は叶いませんでしたが伊勢さずな動物病院(福井大佑君)、そして金沢で漆作家として活躍している藤野征一郎君より、それぞれ小品やパンフレットが提供され、皆への近況報告も兼ねたお土産となりました。



● 部活動

◆ボート部

【近畿高等学校体育大会兼近畿選手権大会出場】

男子シングルスカル準決勝進出

男子舵手付きクオドルプル 5位

上林 汰生 梅田 歩仁

森脇 敬介 田中 琉惟

山田 翔瑛

女子舵手付きクオドルプル

一居由季乃 中尾 幸音

向角 映南 久保田真以

西川 穂翔

【燃ゆる感動鹿児島国体出場】

男子舵手付きクオドルプル

上林 汰生 森脇 敬介

女子舵手付きクオドルプル

久保田真以

◆卓球部

【近畿高等学校卓球選手権大会】

学校対抗

《男子》

長谷川雅人 浅井 悠太

北川 瑛太 北口 颯真

佐藤 優成 松本航太郎

岡野幸太郎 藤本 悠司

《女子》

熊谷 政宗 片山 拓音

田原 未徠 長島 諒弥

井本 早紀 杉本 唯花

相葉奈緒子 河合 莉那

木下こころ 藤岡 紋奈

宮村 叶愛 柳本 愛里

◆陸上競技部

【近畿高等学校陸上競技対校選手権大会出場】

4×400mリレー(男子)

宮川 善貴 前川 弘樹

矢野 結惺 八若 桜太

岡野 晃大 前川 優真

走り高跳(男子)

長田 瑛志 1位

中谷 篤司 3位

円盤投(女子)

木谷 茉央 1位

やり投(女子)

大音 佳歩 1位

八若 桜太 1位

和田 悠汰 1位

円盤投(女子) 木谷 茉央 1位

◆剣道部

【近畿高等学校剣道大会出場】

男子団体ベスト16

木下 拓海 上坂 悠悟

岡部 柁仁 岩佐 雅也

吉本 昌平 吉田 悠治

牧野 優生 吉本 昌平

男子個人

【全国高等学校剣道大会出場】

男子個人ベスト16

吉本 昌平

◆水泳部

【近畿高等学校選手権水泳競技大会出場】

女子フリーリレー

浜田 裕希 宮原 七海

女子自由形

北村 咲瑠 小南沙也香

女子バタフライ

北村 咲瑠 小南沙也香

女子バタフライ

北村 咲瑠 小南沙也香

女子平泳ぎ

安村 優希

◆GS部

【全国高等学校総合文化祭鹿児島大会出場】

化学班

大橋 若葉 磯本 耕助

岩崎 夢大

地学班

高山 涼太 藤島凜太郎

中村 和喜

【高校生による(じが)学びの祭典2023アントレプレナーシップコンテスト】

社会科学班 県最優秀賞

巴 芳代子 諸頭 純

矢掛 善耀 大石恵里花

児玉 愛莉 箕浦 結美

湯浅 葵

◆文芸部

【全国高等学校総合文化祭鹿児島大会出場】

短歌部門

出口 歩武

部誌部門

大山 陽菜

◆ELC

【PDA高校生即興型英語ディベート大会2023出場】

団体戦

◆囲碁部

【全国高校囲碁選手権大会出場】

個人戦

男子：柳原 龍斗

女子：井上 葉月

荒川 陽彩

◆囲碁部

【全国高校囲碁選手権大会出場】

個人戦

男子：柳原 龍斗

女子：井上 葉月

荒川 陽彩

◆囲碁部

【全国高等学校総合文化祭鹿児島大会出場】

日本音楽部門

千田 桜舞 福永 清華

福成 知星 大川 凜音

廣橋 遥奈 三好 玲亜

朝日 実冬 鳥田 ほの

◆囲碁部

【全国高校囲碁選手権大会出場】

個人戦

男子：柳原 龍斗

女子：井上 葉月

荒川 陽彩

◆囲碁部

【全国高校囲碁選手権大会出場】

個人戦

男子：柳原 龍斗

女子：井上 葉月

荒川 陽彩

◆囲碁部

【全国高校囲碁選手権大会出場】

個人戦

男子：柳原 龍斗

女子：井上 葉月

荒川 陽彩

◆囲碁部

【全国高校囲碁選手権大会出場】

個人戦

男子：柳原 龍斗

女子：井上 葉月

荒川 陽彩

◆囲碁部

【全国高校囲碁選手権大会出場】

個人戦

男子：柳原 龍斗

女子：井上 葉月

荒川 陽彩

母校だよ

【全国高等学校囲碁選抜大会出場】

・個人戦

女子：井上 葉月

女子団体

◆将棋部

【近畿高等学校総合文化祭
三重大会将棋部門参加】

船田 大誠 大谷 悠稀

● GSI 推進課より

新しい価値の創出や社会が抱える課題の解決には、文理の枠を越え俯瞰的な見方や多角的な考え方が重要で、本校では、このような探究力の育成と、将来グローバルに活躍するリーダーの輩出を目的に、Global Science (GS) コースを設置しています。ここでは、このGSコースでの取組を一つ紹介します。

課題研究における進め方、データ処理、プレゼンテーションなどの基礎力をできるだけ早く身に付けるために、1年生は「データサイエンス(DS)課題研究」を行います。6つの分野(エネルギー問題、自然災害、水環境問題、住環境問題、プラスチック問題、世界遺産)から興味関心のあるものを1つ選び、その分野に関わる研究テーマを定め課題研究活動をグループで実施しています。生徒たちは、国内外での現状の把握と課題等の情報やデータの収集を行います。そして、企業や大学および研究機関などを訪問し解決に向けての活動や研究を取材し、課題研究の深化発展を目指します。今年度の連携先は、ロジスティード株式会社、積水化学株式会社、油藤

商事株式会社、東京大学、京都大学防災研究所、大阪大学大学院滋賀県立大学、JICA関西、法隆寺など計23団体です。これは、一般社団法人「学びのイノベーション」・プラットフォーム(PLIJ)との連携のもと、公益財団法人JKFAの補助金を受けて進めており、生徒自身が動画教材も作成しています。出来た動画教材は、PLIJのプラットフォームに掲載しており、様々な学校で授業等にて活用されることを目的としています。



探究学習における外部企業への取材 (東京本社にて)

● 進路指導課より

東北大学のみが国際卓越研究大学に選ばれ、東大・京大は落選しました。東北大は、その頃に将来的には二月の個別学力試験(二次試験)を全廃し、入試すべてを総合型選抜(旧AO入試)と学校推薦入試に変更すると宣言しました。卓越大学と二次試験全廃との関係は明確に示されていませんが、今後の大学教育においても課題発見

令和5年度 大学合格者数

() 内は令和5年3月卒の現役

国公立大学	2	(1)	京都府立大	4	(4)
北海道大	1	(1)	京都府立医大	1	(1)
筑波大	1	(1)	大阪公立大	16	(10)
千葉大	3	(2)	和歌山県立医大	3	(1)
東京大	0	(0)	国公立大合計	186	(142)
一橋大	1	(1)	私立大学		
富山大	4	(4)	自治医大	1	(0)
金沢大	4	(4)	慶応大	4	(3)
福井大	3	(2)	東京理大	11	(3)
信州大	3	(2)	明治大	3	(0)
岐阜大	3	(3)	立教大	5	(1)
静岡大	5	(4)	早稲田大	7	(7)
名古屋大	3	(3)	京都産業大	23	(18)
名古屋工大	5	(3)	京都女子大	14	(14)
滋賀大	19	(17)	京都橘大	33	(33)
滋賀医大	5	(4)	京都薬大	17	(12)
京大	12	(8)	同志社大	82	(55)
京都教育大	4	(4)	同志社女子大	18	(17)
京都工芸繊維大	5	(4)	佛教大	33	(31)
大阪大	17	(11)	立命館大	195	(167)
神戸大	13	(9)	龍谷大	152	(142)
奈良女子大	1	(1)	関西大	22	(19)
広島大	8	(5)	近畿大	46	(31)
九州大	1	(0)	関西学院大	14	(11)
東京都立大	1	(0)	私立大合計	830	(684)
名古屋市立大	3	(3)			
滋賀県立大	10	(9)			

型の形態が求められることさらに深く関係があるように思えてなりません。今後の影響として、東大や京大も、これまでの少人数の推薦入試枠を一気に拡大し、更なる国立大学がそれに追随するのはと懸念しています。知識重視のこれまでの入試に対する批判は多くあり、それも尤もなものですが、従来的一般入試にも一定の意義があったはずで、それが急速になくなっていくのは、ダイバシティの観点からも問題があると思います。一般入試に力点を置いて指導している本校としては、バランスのとれた改革であってほしいと願うばかりです。

一方、東京都教委は、都立高校の校内の補習授業等を塾や予備校に委託する方向で事が進んでいます。教員の働き方改革も絡んだことではありますが、この動きは従来の入試を念頭に置いた知識偏重

訃報

【歴代校長】

眞嶋 恒雄

【旧職員】

伊部 二郎

奥 嵩

角川 清

笹原 正隆

竹谷 博

馬場 杉右衛門

兼田 昭互

謹んで哀悼の意を表します。

大菅 糸夫

奥中 光

込山 建治

鈴木 秀雄

田中 徹

吉田 誠三

中村 欽哉

金亀会事務局より

◎令和6年度版金亀会名簿等の販売について(本校事務局の在庫を購入手入する場合)

現在、金亀会では令和6年度(2024年度)版の名簿を作成しております。事務局の在庫をお求めになる場合は、価格は送料込みで4,600円、送料抜きですと4,200円です。令和6年6月中旬以降より、事務局の方でも販売いたします。なお、在庫としては200部ほどを保存する予定でして、なくなり次第販売は終了とさせていただきます。購入方法については、「販売方法」の所を御覧下さい。なお、彦根東高校金亀会は、名簿等に関する業務を榎サラトに委託しております。名簿等に関する郵便物はサラトより発送されます。

◎150周年記念事業等について

現在彦根東高校では、創立150周年記念事業の準備に関わる委員会を立ち上げ、来る2026年に向けて協議を重ねております。部活動の招待記念試合などの様々な事業や、募金活動の準備などに取り組んでおります。この詳細については、金亀会報特別号にて告知する予定です。

◎会報掲載について

金亀会事務局では、会報に掲載する原稿や学校のHPに掲載する記事を募集しております。同窓会をされた場合、その写真や記事を金亀会事務局までお知らせください。

失敗こそが人生の糧

日牟禮八幡宮宮司
(昭和56年度 新聞部部长)

岳 一隆 (東31)

本年、令和6年甲辰年に、還暦となりました。高校時代は、自分が還暦となるのは遙か先の事だと思っていました。が、いざその歳になってしまおうと、あつと言う間。心理学で言うジャーネーの法則「生涯のある時期における時間の心理的長さ、年齢の逆数に比例する」コロナ禍もあつたからか、それを殊更に実感しています。

こうなると、高校入学は何年前だった等は全くわからなるのですが、偶然にも、入学したのは43年前か、と思いだす記事に出会いました。

それは、昨年の10月28日の京都新聞地域版に載った「虎姫高が最優秀賞に」県高校新聞コンテストの記事でした。その記事には『昨年まで43回連続で彦根東高が受賞していた最優秀の知事賞に：』とありました。些か鼻につく方もいらつしやるかも知れませんが、事実を書けば、43年前に最優秀賞(因みに当時、知事賞はま



現在の看板(右下)が行方不明

だありません)を取ったのは、我々が入部した年だからです。前年まで新聞部の部員は少数で、2年生が数名しかいませんでした。そんな中、我々1年生が10名近く入部(2年生も新たに

数名入部)。人数が増えた事もあり、年3回出すのがやつとだった新聞を、顧問の門脇正人先生が年5回は出そうと、発破をかけられました。

とは言え、当時原稿はすべて手書き、勿論写真は紙焼き、割付も全て手作業。印刷も活版印刷で、大垣市の印刷会社に送り校正をして発刊と言う手順。そんな時代に、私も含めて、他の遊びに興じていて、締め切り直前まで記事を一字も書きもしない部員達で、回数を増やすのは、至難の業です。

しかしなんと、5回出す事が出来ました。新聞を3回で、5回出す事が出来ました。タブロイド版の2面新聞は、チラシの様な新聞であり、今見ると恥ずかしい限りですが、曲がりなりにも、5回発刊出来た達成感、今でも鮮明に覚えています。

そして、県のコンテストで最優秀賞をいただくわけですが、当時は今と違い、各校その年の一番良い新聞を出品し、それを審査する形式で、夏の特集が評価されての受賞。ただ、発表会での審査員の講評は、特集の評価以前に「例年より見出しが大きくなった」でした。後で知ったのですが、昨年も記事内容に自信があり意気揚々でこの発表会に来た所、見出しが小さい、新聞が真っ白等と散々言われて優秀賞すら逃したそうです。

記事の割付中に、先生が「見出しを大きくしろ」と口酸つぱくおっしゃっていた理由が、この事だったのかとわかった瞬間でした。翌年、部長となり、連覇を目指す事になるのですが、次の1年生



43年前の最優秀賞楯

は実質4名。その分2年生が、昨年以上に頑張るかと言えはそうでもなく、7月号だったと思いますが、こんな割付では印刷出来ませんと、試験期間中に印刷会社から突っ返され、夜中までかかって割付し直した事もありました。また、部員間ではいろんなトラブルや、対立もありましたが、やる時はやるのが我が部のモットー。此の年も5回発刊。中でも合宿して完成させたのは初の6面新聞。その新聞が評価されて連覇を達成する事が出来ました。顧みれば、トラブルや対立等があつたからこそその受賞だったと、本気で思っております。

さて最後に現役部員に一言。今回の結果は、さぞかし無念だったと思いません。私が現役だったら、悔しくて退部したかも知れません。しかし、逃げたはいけません。残念な結果ではありましたが、連覇の呪縛から逃れる事が出来たのも事実。それを逆手に取り、失敗を恐れず、大胆に挑戦してください。長いと思つていらっしゃる高校3年間は、人の一生で考えればほんの一瞬です。今回の結果なんか躓きですらありません。そして、大事な事は、躓きや失敗こそが人生の糧だと言う事です。これからの新聞部の活躍を楽しみにしています。



連覇達成時の記念撮影

令和6年度

金亀会総会

滋賀金亀会総会

●日時 令和6年5月19日(日)

(受付12時45分)

13時15分 滋賀金亀会総会

14時 総会

15時 記念講演会

●場所

滋賀県立彦根東高等学校
木造校舎棟 多目的ホール

●講演

講演 『高校野球の歩みと共に』

〜文武両道 さらなる磨きを〜

講師

公益財団法人日本高等学校野球連盟副会長
元彦根東高校野球部監督

北村 雅敏氏 (東17)



17時より

*懇親会

彦根キャッスルリゾート&スパ
0749-2112001
10,000円(当日徴収)